



Over the Horizon ~新たな景色へ~

節、けじめ、節度は大事

竹は強い風が吹いても、しなることはあっても折れません。

また、冬に雪が積もっても木のように雪の重みで折れることはなく、たわみながらもじっと重みに耐えています。

それはなぜか、およそ60近い節があるからです。節があるために、反ってはもとに戻りますし、重みが一点に集中せず分散されるためです。

人間の背骨も節のようになっています。そのため、前に曲げたり、後ろに反ったりもできます。重い頭を支えることができます。

このように節は重要な意味があります。これを人生や生活に当てはめてみると、一日、一週間、一か月、1年、小学校時代、中学校時代、・・・等々様々な節目があり、節目、節目でどのような区切りをつけるか、けじめをするかが大事です。大きく伸びようとすれば、自分自身で節目をつくり、振り返り、反省し新たな動きをつくっていくことが大事ですね。学年の節目、中学校の節目、義務教育の節目、自分なりにけじめをつけていきましょう。

歌は情感を開放する。

卒業式で歌う歌を3年生が練習しています。美しいメロディー、愛惜や惜別を思わせる切ない歌詞、後一月足らずだと感慨深く耳にしました。

自分では紡ぎ出せない、様々な思いを歌に込めて、これまで直接的に間接的にお世話になった人に届けることができればいいですね。

大人になるとは、自分が受けた当たり前のことにどれほどの感謝を感じることができ、それを自分なりに精一杯伝えようとする行為に表せることでもあると思います。

「歌は心・・・」山村先生の言葉でしたね。

.....

「またね」と手を振るけど

明日も会えるのかな

遠ざかる 君の笑顔今でも忘れない

あの日見た夕日 あの日見た花火

いつでも君がいたね

当たり前が幸せと知った

.....【群青より抜粋】



幸せになるためには、言葉を選びましょう

芥川龍之介は、

『運命は偶然よりも必然である。

「運命は性格の中にある」といふ言葉はけっして等閑（なおざり）に生まれたものではない』と述べています。

これを読む限り、運命をよくしようと思えば、性格を変えるといいというようにも捉えられます。しかし、性格を変えとなると、多くの人はなかなか難しいなと感じることでしょう。

それならどうすればよいか。言葉を選ぶことも一つあると思います。

「でも、だって、どうせ、どうでも」といった、Dで始まる後ろ向きのマイナス言葉を、何か決心や決断を迫られたりしたとき、つい声に出して言ったりあるいは、心の中で内語としてつぶやいたりしていないでしょうか。それでは、運命は好転しそうにありません。

やはり「やれる、やるぞ、やったー」といった、前向きのプラス言葉をできるだけ使うようにしたいですね。

困難な状況に遭遇したとき、人はとかくできない理由を探し、自分を納得させ現実を受け止めようとしがちです。それはそれで、自己の精神的安定を図る上で大事ですが、未来を変えることにはつながっていきません。

挑戦する気概、勇気、本気こそより良い未来を開き、幸運を手にする鍵となります。

自分の力を信じて前に進みましょう。運命を明るく開いていきましょう。

当然、思うだけ、言うだけでは足りません。変えようとする弛みない努力、あきらめない固い意思が大事ですね。

皆さん頑張りましょう。

心を育み、脳を活性化する読書

1月18日（木）に本校に来られ、1年3組の生徒を対象に授業をしてくださった今村翔吾先生の本です。歴史小説について、今村先生の考えや、様々な本も紹介されています。

私も歴史小説が好きで、司馬遼太郎、宮城谷昌光、北方謙三、浅田次郎などを読みましたが、大変面白いです。時代が進歩しても人の感情や考えは変わらず現代に通じることがたくさんあり、勉強になります。皆さんも、下の本を読んでみて、自分の興味関心にフィットした本を読んでみてください。



『教養としての歴史小説』

今村翔吾 著

ダイヤモンド社

歴史小説を読む利点、効果について著者が自分の読書体験を披露しながら、書かれています。大変説得力がありなるほど強く思います。賢者は歴史に学ぶとか、振り向けば未来という言葉もあるように、未来や将来を考える上で大変勉強になります。時代は繰り返すともいわれますが、時代は進化しても人の思考、感情は変わらず、多くを学べます。